

プロジェクト成果冊子
『児童福祉に携わるひとのための
「警察が分かる」ハンドブック』進呈

入場無料
要事前申込

主催：京都産業大学
社会安全・警察学研究所
共催：警察大学校
警察政策研究センター

平成31年2月4日(月) 13:20 - 16:40
京都ガーデンパレス

地下鉄丸太町駅から北へ徒歩8分・今出川駅から南へ徒歩8分

京都産業大学社会安全・警察学研究所では、科学技術振興機構社会技術研究開発センター（JST/RISTEX）の委託を受けて、研究プロジェクト「親密圏内事案への警察の介入過程の見える化による多機関連携の推進」を実施してきました。この研究プロジェクトでは、関係する多くの方々のご協力を頂戴して、とくに児童虐待について警察の介入判断のしかたを明らかにすることができました。これまでの研究成果を報告するとともに、児童福祉と警察・司法との対話を深めていただくために、シンポジウムを開催いたします。

第1部 講演



田村正博

京都産業大学社会安全・警察学研究所所長

**警察の児童虐待への対処の
現状と課題**

仲真紀子氏

立命館大学総合心理学部教授

子どもの報告を支援する
— 司法面接と非開示の子へのサポート —



第2部 ワークショップ

① 事件化は
子どもの
最善の利益に
つながるか？

② 児童相談所と
警察をどう
つなぐか？

③ 子どもの
報告を
支援するには
どうするか？

シンポジウム
警察と福祉の対話をめざして
児童虐待対応のための

ワークショップのご案内

第2部では、次の3つのいずれかを選んでご出席ください。

① 事件化は子どもの最善の利益につながるか？

警察による事件化は家族の再統合を阻害する、事件化しても起訴に至らなければ逆効果だ、といった意見があります。逆に、警察の介入には再虐待防止効果が高いという見解もあります。虐待を受けた子どもの幸せのために、警察の介入には、そもそも、また、どのような意味があるのか考えます。

《話題提供》

岡 聰志氏（金沢ふたば保育園長、横浜市南部児童相談所元所長）

新 恵里（社会安全・警察学研究所准教授、被害者学）

《司会》

内海裕子氏（警察政策研究センター教授）

浦中千佳央（社会安全・警察学研究所准教授、警察学）

② 児童相談所と警察をどうつなぐか？

児童相談所と警察とのよりよい連携のためには、両者間に立ってインターフェース役を果たす「人」の存在が重要です。現職警察官の児相への派遣、警察官OBの児相での再雇用、少年補導職員や心理職員といった福祉に理解のある警察職員の配置など、様々な試みがなされています。これらの人はどんな役割を果たしており、どのような活躍が期待されるのか考えます。

《話題提供》

清水孝教氏（世田谷区児童相談所開設準備担当課、横浜市北部児童相談所元所長）

澤田基浩氏（彦根子ども家庭相談センター副主幹、滋賀県警察より出向）

《司会》

須賀博志（社会安全・警察学研究所教授、日本近代法史）

③ 子どもの報告を支援するにはどうするか？

司法面接は虐待をうけた子どもから正確な供述を得るために不可欠となってきていますが、それだけでは、何らかの理由で被害の報告をしない子どもから話を引き出すことはできません。第1部の仲氏の講演でこの問題への対策が論じられますので、それをうけて、警察の現場での取組みを紹介していただき、議論を深めていきます。

《話題提供》

安永智美氏（福岡県警察北九州少年サポートセンター少年育成指導官）

田中晶子氏（四天王寺大学人文社会学部准教授、認知心理学）

《司会》

増井 敦（社会安全・警察学研究所准教授、刑法学）

参加申し込み方法

お名前・ご所属・役職と参加希望のワークショップ（①～③）を明記して、**1月28日（月）**までに下記アドレスにメールでお申し込みください。講演会場またはご希望のワークショップ会場が定員を超えた場合にのみ、ご連絡を差し上げます。

icj-ksu@cc.kyoto-su.ac.jp（社会安全・警察学研究所）